

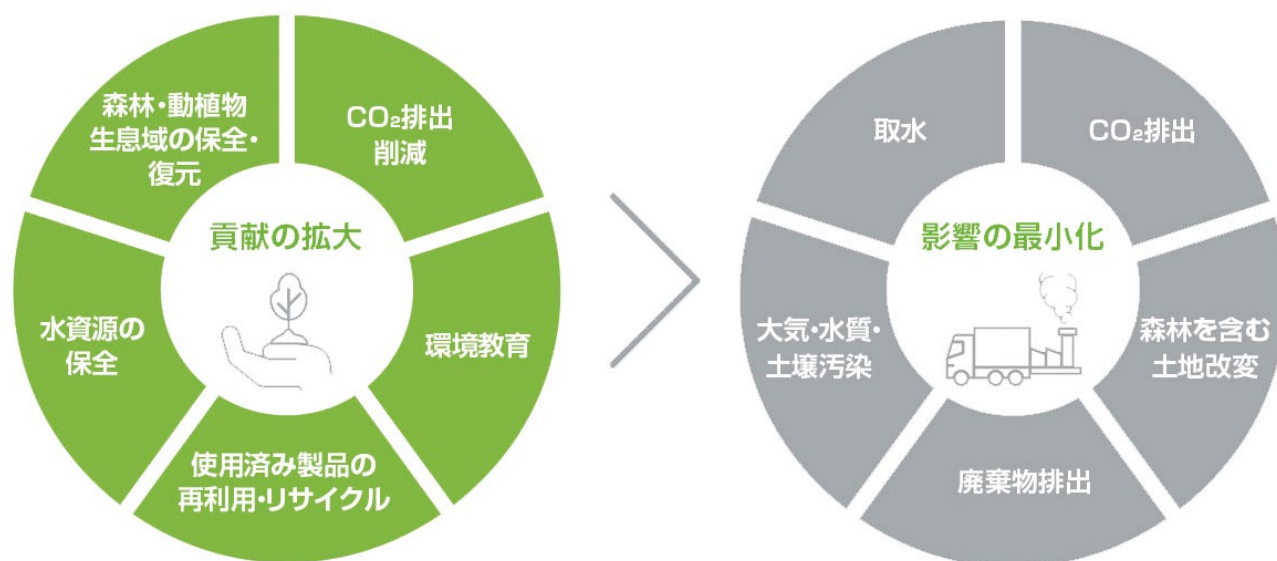
## 価値共創への招待～信頼の醸成

### 自然との共生

ブリヂストングループは、生態系、種、遺伝子の多様性からなる生物多様性に対し、事業活動による影響を最小化しながら貢献を最大化することで、自然と共生し続けることを目指しています。

当社グループにおける「自然と共生する」活動においては、2010年にCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)で採択された長期目標に則り、事業活動と生物多様性の関係を把握し、優先して取り組むべき課題を特定した上で活動

を進めています。「自然と共生する」活動の2050年を見据えた環境長期目標で掲げる「生物多様性ノーネットロス」とは、事業活動が与える生物多様性への影響を最小化しながら、生物多様性の復元などの貢献活動を行うことによって、生態系全体での損失を相殺するという考え方です。当社グループは、事業活動全体で「生物多様性ノーネットロス」に向けた取り組みを推進しています。



#### ■ 影響の最小化の例: 自社及び地域連携による取水量削減活動

当社グループが事業を継続していく上で水は不可欠な資源であると共に、水を利用する企業の責任として、水資源を持続可能な形で利用していくことが重要であると認識しています。2020年に策定した、公平かつ持続可能な水の利用に向けた「ウォーターシュワードシップポリシー」に基づき、水ストレス地域に立地する生産拠点<sup>\*1</sup>を中心に、2030年までにそれぞれの地域環境に応じた具体的なウォーターシュワードシッププランを策定・実行していきます。2022年6月時点で、対象25拠点のうち7拠点でウォーターシュワードシッププランの策定が完了しています。

具体的な成果として、水ストレス地域にあるアルゼンチンのブエノスアイレス工場では、水利用の効率化に継続的に取り組んでおり、2021年に生産量当たりの取水量を2005年比で55%削減しました。また、2019年には、ブエノスアイレス州ラバロール郊外での取水量の削減に向けて、セメントメーカーであるロマ・ネグラ社とパートナーシップを結びました。事業活動から出る排水を工場内の逆浸透膜処理システムを用いて処理し、主にセメント製造の工程用水としてロマ・ネグラ社に月平均約1,200m<sup>3</sup>を提供しています。

組んでおり、2021年に生産量当たりの取水量を2005年比で55%削減しました。また、2019年には、ブエノスアイレス州ラバロール郊外での取水量の削減に向けて、セメントメーカーであるロマ・ネグラ社とパートナーシップを結びました。事業活動から出る排水を工場内の逆浸透膜処理システムを用いて処理し、主にセメント製造の工程用水としてロマ・ネグラ社に月平均約1,200m<sup>3</sup>を提供しています。

ブリヂストングループは、取水量削減のため、一部の工場で雨水の利活用にも取り組んでいます。ブリヂストン オーストラリア リミテッドのリトレッド用部材工場では、2021年現在、年間500万リットル以上の雨水を貯留し、現地の生産工程で利用しています。

<sup>\*1</sup> 淡水資源の量や質の低下のリスクがある地域に所在することにより水リスクを抱える生産拠点

## ■ 貢献の拡大の例: 生物多様性貢献活動推進プログラム

近年、気候変動、資源不足、そして生物多様性の損失がもたらす社会や環境への影響がより顕著になってきており、当社グループは事業活動を通じてこうした社会課題の解決に貢献していくことを目指しています。未来のすべての子どもたちが「安心」して暮らしていくために、世界各地にある当社グループの生産拠点で生態系の保全・復元活動を実施しています。

2019年に開始した「自然と共生する: 生物多様性貢献活動推進プログラム」では、子どもたちへの環境教育の実施件数、地域の学校やNGO/NPOとのパートナーシップ、生息地として管理されている敷地外面積など、9つの主要な活動指標を用いて各拠点における貢献レベルを毎年評価しています。また、評価結果に応じた社内認証も行い、活動事例を共有することで生物多様性貢献活動を推進しています。当社グループは、動植物やその生息地の保全・復元に貢献し、また様々なステークホルダーの皆様と共に活動に取り組むことで、「Bridgestone E8 Commitment」の「Ecology」に掲げる、より良い地球環境を将来世代に引き継ぐことへとつながっていきます。

当社グループは、約160<sup>\*1</sup>の生産・開発拠点をもち、150を超える国々で事業を展開しています。世界各地にある拠点で、地域社会との対話を通じてその地域に根差した生物多様性の保全活動を推進しています。生物多様性貢献活動推進プログラムなどの情報を社内の幅広いネットワークで共有し、各地域で生物多様性に関する研究・教育活動を展開することで、グループ内外にその重要性を伝え、さらなる貢献へとつなげていきます。

日本では、2004年より森林整備活動区域を設けて活動を開始し、現在は「エコピアの森」プロジェクトとして国内事業拠点9か所で活動を展開しています。2021年は、滋賀県彦根市と福岡県久留米市の「エコピアの森」で自治体と連携したイベントを開催し、彦根では78人、久留米では25人が参加しました。間伐体験や動植物の観察、森林清掃を通じて、森林の役割や機能、生物多様性の大切さについて学ぶきっかけとなりました。



「エコピアの森 久留米」でのイベントの様子

\*1 2022年3月1日時点

タイヤの生産拠点である米国サウスカロライナ州のエイケン工場では、10年以上前から、サウスカロライナ大学と連携し、生物多様性の保全に関する教育プログラムを地元の学校へ提供しています。また、様々な生物にとって重要な植物であるロングリーフパインなどの生態系復元活動も積極的に行っています。2021年には、2,100人以上の地域住民の方々を対象に、生物多様性についての教育・啓発活動を実施しました。



プロジェクトの一つ、ロングリーフパインの森

インドネシアでゴム農園を運営するピーティー ブリヂストン スマトラ ラバー エステート (BSRE) では、大雨による土砂崩れが周辺の生態系へ被害を与える恐れがあることから、2021年に生物多様性保全のためのイベントを開催しました。地域の学生や自治体関係者、BSREの従業員など約200名が参加し、サイクリングや植樹、魚の放流、川の周辺や水面の清掃などのプログラムを通して、生物多様性の重要性を学びました。



当社グループの自然との共生に向けた取り組みについて、詳しくは[Webサイト](#)をご覧ください。